

平成 28 年 度

事業報告総覧

一般財団法人 日本蛇族学術研究所

URL:<http://www.sunfield.ne.jp/snake-c/>

平成28年度事業報告

自平成28年（2016年）4月 1日
至平成29年（2017年）3月31日

事業概要	1
A. 公益事業	
1. 社会教育事業	1
1) ヘビ類の飼育展示	1
2) 講演、研修会、啓蒙活動	1
3) 特別企画	2
4) 毒蛇咬症国際研修センターにおける活動	2
5) ホームページによる情報の発信	2
6) その他	3
2. 研究事業	
1) タンビマムシの飼育繁殖に関する研究	3
2) 抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究	4
3) 受託研究ーハブとの共存に関わる総合調査事業（継続）	4
4) 学会発表及び論文、報告書等	4
B. 収益事業	
1. ヘビの登攀防止実験、忌避剤の検定等	4
2. むけがらやヘビの写真等の販売	4
3. テレビ撮影の協力、写真・映像の貸し出し	4
職員名簿	5
役員、評議員名簿	6

平成28年度の事業概要

一般財団法人へ移行し3年が経過し、展示だけでなく、社会への還元として多くの事業を行ってきた。社会教育事業として研修、講演等を積極的に行った。また、毒へび110番活動として、一般の人だけでなく医療機関に対しても非常に多くの電話やメールでの問い合わせに対応した。

A. 公益事業

1. 社会教育事業

1) ヘビ類の飼育展示

毒蛇温室、熱帯蛇類温室、大蛇温室、子へびコーナー、野外飼育場等で約80種、約4,000個体（へび類の他、トカゲ、カメ、ワニなど含む）を飼育展示した。

2) 講演、研修会、啓蒙活動

所内外で講演や研修活動を行った。

(1) 爬虫類体験教室の開講

毎週日曜日に、爬虫類や有毒生物などについて一般来園者向けに教室を開いた。

(2) 夏休みハ虫類教室の実施

夏休み期間の毎日曜日およびお盆休みの期間に、研修室において「夏休みハ虫類体験教室」を行い、一般入場客に対してスライドや生きた蛇などを使って、蛇を中心とした爬虫類について解りやすく説明を行った。また、昆虫採集など屋外での活動時に起こる毒蛇やその他の有毒生物による被害やその対処について話をした。

(3) ヘビや毒蛇咬症に関する講演、講習の実施

- ・「毒蛇咬症の診断と治療、及び治療における問題点」（7月、湘南鎌倉総合病院、佐野厚生病院）（堺）
- ・「へびと仲良くなろう」（6月、桐生自然観察の森）（三保）
- ・「危ない講演会 危険なへびを覚えよう」（8月久万高原産業文化会館、愛媛）（三保）
- ・「へびについての授業」（9月、高崎高校SSH事業）（堺）
- ・「へびの解剖実習」（10月、高崎高校SSH事業）（堺）
- ・「ぐんまの自然のいま、利根川・渡良瀬川流域における群馬県東部の外来種ヌマガエルの分布」（1月、群馬県立自然史博物館）（山崎）
- ・「へびのヒミツをさぐろう！」（5月、北九州市立児童文化科学館）（橋元）
- ・「生き物のはなし。へび編」（5月、北九州響灘ビオトープ）（橋元）
- ・「へびの生態とひみつ」（7月、山田緑地）（橋元）
- ・「へびの生態とひみつ」（8月、グリーンパーク）（橋元）
- ・ミニ講座「親と子のふしぎなへびのはなし」（北海道恵庭市）（橋元）

- ・「不思議なヘビと生態のひみつ」(8月、北海道洞爺湖ビジターセンター)
(橋元)
- ・「野山のいきもの ヘビの生態とヒミツのおはなし」(8月、白野江植物公園)(橋元)
- ・「知られざるヘビのひみつ！」(10月、北九州市小倉北区)(橋元)
- ・「いきもののおはなし(冬のヘビ編)」(3月、北九州市響灘ビオトープ)
(橋元)
- ・山田緑地「マルシェ」にてヘビのタッチコーナーを担当(橋元)
- ・「ヘビの判別と毒蛇咬症」(3月、渋川広域森林組合)(堺)

(4) マムシ対策研修講座の開講

4～9月の期間に月1回(計6回)、野外でのマムシやヤマカガシ咬症の予防や応急処置、診断、治療などについて講座を行い、一般市民、自然観察指導員、医療関係者等32名が受講した。

(5) 職場体験—中高学生の職場体験の受け入れ

太田市立藪塚中学校 4名 8月2日間

3) 特別企画

(1) 第14回ペット爬虫類コンテスト

太田市・太田市観光協会等の協賛で4月29日に行った。18名の参加者があり、ヘビ、トカゲ、カメなどを持ちより、美しさ、健康具合等を審査した。

(2) 白蛇観音供養祭 期日： (春) 4月 3日

52回(秋) 10月16日

死亡したヘビ類や餌となった動物の供養を行うと同時にヘビについての理解を深めてもらうためのイベントを行った。

4) 毒蛇咬症国際研修センターにおける活動

(1) 毒蛇110番活動

一般の人からのヘビや駆除に関する問い合わせや咬まれた患者からのヘビかどうかや種類の判別、病院からのヘビの判別や診断、治療についての問い合わせを受けた。

本年度も8件ヤマカガシ咬症に関する緊急連絡があったが、7件は無毒咬症で、1件小学生のヤマカガシ咬症では毒が注入されたが、少量であったため軽症であった。

また、インドネシアでタイヤマカガシに咬まれ出血を起こしている患者の治療についてらニホンヤマカガシの抗毒素の入手方等について問い合わせがあった。未承認の抗毒素は送ることはできないが、毒の作用や対処方について情報の提供を行った。

スウェーデンでは日本のヤマカガシがペットとして輸入されており、抗毒素の入手法についての問い合わせがあった。

問い合わせ件数

	Eメール	電話	合計	(咬症関連)
26年	215	210	425	(40)
27年	258	192	450	(52)
28年	168	231	399	(64)

(2) 研修生の受入れ

福岡 ECO 動物海洋専門学校	1名	(6日間)
奈良大学	1名	(2日間)
東京都市大学自然科学科	1名	(5日間)
東京農業大学生物生産学科	1名	(10日間)
麻布大学動物応用科学科	1名	(6日間)
日本大学獣医学科	2名	(6日間)
上野動物園	2名	(1日間)
日本ペット&アニマル専門学校(東京)	1名	(12日間)
日本獣医科学生命大学	2名	(6日間)

5) ホームページによる情報の発信

当センターでのイベントやヘビに関する情報の発信を積極的に行った。ヘビの判別に関する問い合わせが多いことから、判別に役立つ写真を多数載せ、解説を加えた。また、ペットの爬虫類による事件などの情報も発信し、爬虫類飼育者に注意を喚起した。さらに、センターでの出来事などできるだけ情報を更新し、アクセスの増加に努めた。また、フェイスブックも開設し、さらなる情報発信と拡散に努めた。

6) その他

(1) 警察、保健所、税関への協力

野外で捕獲された外国産及び国産爬虫類を警察等から引き取った。

アオダイショウ(多数)、イエローラットスネーク、カーペットニシキヘビ、グリーンイグアナ、スインホーキノボリトカゲ、ワニガメ(2)、スッポン(2)、ミシシッピーアカミミガメ(15)を引き取った。

(2) スネークファンクラブ通信の発行

ファンクラブ通信を4回発行した。(季刊)

2. 研究事業

1) タンビマムシ(中国産)の飼育繁殖に関する研究

野外飼育場でのタンビマムシの飼育環境について、さらに飼育環境の改善を検討した。また、幼蛇飼育に必要なカエルを繁殖飼育するために、シマヘビ野外飼育場の池の整備を継続して行っており、若干カエルの生息も認められた。

- 2) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構補助金
○抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究
ニホンヤマカガシ毒とタイリクヤマカガシ毒（中国産）の各種生理活性の比較。
- 3) 山田緑地、生き物との共生モデル実証調査
北九州市の生態系ネットワーク形成の方向性や計画づくりの策定を行う。
爬虫類・両生類の調査を担当
- 4) 受託研究
○ハブとの共存に関わる総合調査事業（鹿児島県からの委託）
「徳之島におけるハブ生息地の環境調査」及び「ハブの卵巣分析の調査研究」を行った。
- 5) 学会発表及び論文、報告書等
 - (1) 学会発表
第 38 回日本中毒学会（新潟）「ニホンヤマカガシ毒とタイリクヤマカガシ（中国産）毒の各種生理活性の比較」（堺）
第 56 回日本爬虫両棲類学会（熊本）「ハブの生殖に関する徳之島と奄美大島の比較」（森口）
 - (2) 論文、報告書等
へびの抗毒素. 中毒研究 30 (2017) (堺)
平成 28 年度ハブとの共存に関わる総合調査事業報告書（奄美群島振興開発事業）。（森口）
Seasonal Activity Pattern of a Nocturnal Fossorial Snake, *Achalinus spinalis* (Serpentes: Xenodermidae), Yamasaki, Yohei and Yoshihisa Mori Current Herpetology (2017), 36(1): 28-36. (山崎)

B. 収益事業

1. へびの登攀防止実験、忌避剤の検定等
試作された忌避剤の検定を行った。さらに、センター内に造られたスズメバチの巣に対して駆除試験も行った。
2. ぬけがらやへびの写真等物品の販売
へびの飼育において得られた脱皮殻及びへびの写真等の販売を行った。
3. テレビ撮影の協力、写真、映像の貸し出しを行った。また、図鑑 LIVE「爬虫類両生類」（2016年7月発行）の制作協力を行った。